



I know I'm wonderful

薄く雪が積もった山々に時折日が差す景色は、水墨画のようでとてもきれいです。とはいえ、急な寒さはこたえます。三寒四温といいますが、寒暖差が激しい頃です。春が近付いてきている証拠と前向きに捉え、体調管理に気を付けていきましょう。

さて、休日や夕食後、少し時間ができたときに YouTube を見る場合があります。最近のお気に入り「America's Got Talent」や「Britain's Got Talent」というタレント発掘番組。ご存じの方もいますか？

出演者には、癌を乗り越えて歌手を目指す人、聴覚を失っても筋肉の記憶をたよりに歌う人、ハンディキャップをもつ人等、様々な事情を抱えた人がオーディションに出演。もちろん有名になりたいと一攫千金を狙う人もいるし、過去には「ゆりやん」も出演。パフォーマンス後に審査し、審査員全員が「Yes」の判定なら次のステージへ。さらに素晴らしい場合には、ゴールドエンブザーという特急券でファイナルステージへ。ゴールドエンブザーを獲得したときの感動的な場面が好きで、この番組を見ています。

よくないパフォーマンスの時には、審査員は容赦ない辛辣な言葉でダメ出しすることもある。ですが、「Yes」やゴールドエンブザーの時は、豊かな言葉と表現で出演者を褒め讃えます。字幕で意味を確認しながら、英語を聞いていますが、その褒める表現がこんなにもたくさんあるのかといつも驚いています。

例えば・・・

Amazing, So cool, So pure, Lovely, Wonderful, Excellent, Incredible, Speechless.・・・

と、英語の苦手な私にもたくさんの言葉が聞こえてきます。

豊かな言葉で褒める文化があるから、日本人より自己肯定感が高い人が多いのでしょうか。多くの表現があるのに、日本語の字幕だと「素晴らしい」に置き換えられることがほとんど。きっと翻訳家の戸田奈津子さんなら、もっと豊かな日本語をあててくれると思いますが。

ジャズシンガーの Gretchen Parlato の曲で「Wonderful」という歌があります。

I know I'm wonderful というフレーズが、リズムカルに何度も繰り返し歌われます。

途中、小さな子供たちが I know I'm wonderful と歌うところはとても微笑ましいです。

自分の息子に書いた曲だけど、全ての子供たちや子供時代を振り返る大人たちにも贈りたい。

「私はワンダフルなんだ」って思えるべきだし、そう言えるようでもあるべきだと思う

という気持ちで作られた曲だそうです。

曲は、母と父と祖母と祖父もワンダフルと続き、I know you're wonderful へ。

日本人は諸外国の人と比べて自己肯定感が低いといわれます。

北中生も同様に「自分のよさを見付けることができた」と回答する割合が高くありません。

謙遜する日本の文化だという意見もありますが、グローバルな時代を生きる時、自分のよさを自らアピールし、発揮する力が求められています。

I'm wonderful You're wonderful とよさを認め、伝え合う校風を高めていきたいものです。

まずは、私たち教職員が生徒のよさを「Yes」と認め、たくさん伝えていきましょう。

※YouTube はエンドレスに流れてくるので、健康のためにも視聴時間にはくれぐれもご注意ください。